

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。早いもので、もう師走。本格的な冬がやってきました。くれぐれもご自愛ください。

日常会話の中に浸透している仏教用語をお伝えしている今年のかかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きます。

今年はどうな年でしたでしょうか。「いや、良い一年だった」という人もいれば、「今年は心配ごとが多く、四苦八苦したよ」という人もいます。

この「四苦八苦」も仏教用語です。ご存じの方も多いかもしれませんが、それは「四苦」まで。「八苦」までご存じの方は仏教通です。

何の不自由もないシャークヤ国の王子に生まれたゴータマ・シッタールタ、つまりお釈迦様。シャークヤ国の王子なので、音写してお釈迦様です。

人はなぜ年老いて、病に苦しむ、そして死ななければならぬのだろうか。そもそも、生きていくと、悩みも多く、心配ごとだらけです。お釈迦様はこの「生老病死」の苦しみに向き合い、物

思いにふけるようになりました。この「生老病死」が「四苦」ですね。ここまでは、すんなり理解できると思います。

さて、「八苦」はこの「四苦」にもう四つ加えて「八苦」と言います。

「愛別離苦(あいべつりく)」は、愛する人ともいつかは別れ、離れなければならない苦しみ。生きて離れることもあれば、死別することもあります。悲しいですね。

「怨憎会苦(おんぞうえく)」は、会いたくない、接点をもたたくないような嫌々な人とも知り合わなくてはならない苦しみ。それを受け入れざるをえないのが人生。難しいですね。

「求不得苦(ぐふとくく)」は、「あれがほしい」「これもほしい」と欲を出すのが人間という生き物。そして、求めても自分の思いどおりに得られないから「残念」「悔しい」「苦しい」という気持ちに湧き上がります。「欲こそ「苦」の原因です。

「五蘊盛苦(ごうんじょうく)」はちよつと難しいですね。「五

蘊」は「色」と「受想行識」の五文字で「五蘊」。過去のかわら版(般若心経の解説編)でお伝えしましたが、「色」は人間の心からだ、「受想行識」は人間の心を指します。からだも心も「あれがほしい」「これもほしい」と「盛」になるもの、思うようにならないという人間の本質的な「欲」の苦しみを表現しています。

因みに「受」は、人間は様々な情報を目・耳・鼻・口・体・心の「六感」から「受」けることを意味しています。その情報に対し、自分の好き嫌いや価値観から個人的な感情を抱くことを「想」「行」「識」という字が示しています。

「生老病死」に「愛別離苦」「怨憎会苦」「求不得苦」「五蘊盛苦」を合わせて「四苦八苦」。そもそも「人間」が仏教用語であることは、先月お伝えしました。「四苦八苦」と向き合う「人間」。いやはや、仏教用語だらけです。それでは皆さん、少々気が早いです。良い年をお迎えください。合掌。



定員40名 第14回「弘法さんを語る会」

知多四国八十八ヶ所霊場
と
日常会話の中に浸透している仏教用語

12月23日(土祝) 午後3時の部
残席僅少

午前10時・午後1時の部は満席となりました。

会場 山王院 専修院
日泰寺西

～執筆者・大塚耕平
がお話させていただきます～

お申込み先【事務局】あさい

TEL 052・757・1955

(定員になり次第締め切り)

お申込制
参加無料

